

議事（2）「介護している家族が困っていること」について

① 介護について

- ・介護者自身が高齢でがんや認知症になる可能性もあり、介護できなくなった時のことが一番の心配事。
- ・介護者が懸命に介護していても、本人が「私のお金を盗ったでしょう。」「私なんて死んだらいいと思ってるでしょう。捨てるつもりでしょう。」と言い出すことがある。特に介護者が1人の場合、逃げ場がなく精神的に辛い。
- ・認知症の妻に嫉妬妄想があり、女性への拒否反応が強いため、ヘルパーを家に入れられない。
- ・認知症で行方不明になると事故につながるため、必死に対策を考えているが、高齢の介護者がうたたねしている間など一瞬目を離した隙に家を出てしまう。ずっと目を離せず、気の休まる間がない。
- ・認知症で行方不明になることが増えてくると、家族だけでの見守りには限界があり、近所の方へ認知症のことを話し、サポートしてもらおうよう見守りをお願いしている。

② 認知症の人の運転について

- ・認知症の夫の運転に頼っている場合など、現実的に免許返納は難しい場合が多い。
- ・公共交通機関が少ない地域に住んでいる若年性認知症の本人は、買い物や通院など、自動車運転がどうしても必要である。本人は、スマートフォンやカーナビゲーションが使える、運転に支障がない状態であり、「認知症と診断されただけ」で運転を禁止されることは納得できないし、現実的でないと考えている。車なしでは生活ができない。
- ・認知症の夫は、介護者である妻（80代）が運転を代行することを約束に、運転をあきらめ、車も処分した。家族会としては、（認知症ではないが）80代の妻が運転することも不安である。
- ・家族が説得したり、あんしんすこやかセンターに説得をお願いしても、運転をやめさせられないことも多い。運転免許証を返納させるための説得方法など得策や代替策があれば教えてほしい。

③ 就労している介護者について

- ・本人と娘の二人暮らし。娘が仕事にいつている日中に本人が階段から転落したことがあり、娘は心配でたまらない。本人は「自分はしっかりしており大丈夫」と言い、サービス利用を拒否しているため、要介護認定申請につながらない。

④ 入院の対応について

- ・身体合併症治療の際に一般病院で入院を拒否される場合がある。どの病院も認知症に理解があり、入院させてもらえる環境になれば家族は安心できる。
- ・入院中、認知症の症状に病院では対応できないと、家族に24時間つきそい介護を求められる。家族の負担が大きい。

⑤ その他

- ・核家族化するなかで、介護の負担が特定の個人に集中してしまっている。困った時にすぐ対応してくれる体制がほしい。

- ・認知症の家族を長期間介護していると、言葉の暴力など、虐待しそうになることがある。
- ・ケアマネジャーの、認知症の人に対する必要なサービスの知識が充分でない場合がある。
- ・特定の施設で定期的に短期入所生活介護を利用したいが、空きがない場合がある。
- ・介護保険制度開始前から介護している人は、制度開始後、介護保険サービスがあり、また、短期入所生活介護などをうまく利用すれば介護負担が軽減されていると感じている。
- ・家族が望む介護は、個々様々である。